

OB紹介



広島大学 入学センター 準教授
永田 純一 さん

教えてください。――お仕事について

するセクションとして、教育室があり、その中に入学センターがあります。そこに教員と職員の両方が所属しています。入試グループが、職員の方が所属するグループで、運営する実際の事務担当です。例えば、皆さんに身近なところで言いますと、大学入試センター試験のいろんな処理をしておられるのがこのグループで、会場の設定や大学入試センター試験の本部とのやりとりをしています。それでは

く、そういう組織です。運営体制は、センター長、副センター長が1名、専任教員が他に私も含めて2名、入試グループに9名いらっしゃいます。その他に、入試に関する研究を行い、その内容を論文にして出版し、他大学と情報を共有しながら入試改善の方法を探るという仕事もあります。

年前だつたと思ひますが、筑波大学、北海道大学、広島大学、その他いくつかの大学で、共同研究を実施し、論文等での成果が公表されています。ただ、入試というものは成績等のデータは簡単には引き出せないようになっていて、普通は見られないようになつていています。だから、こういうところで公開する内容も限定されます。ある特定の人がこの得点だということが

ら、教育を受ける人がサービスを受ける人、こちらがサービスの提供者、あるいは研究をする会社に例えられます。そしてその会社に総務部や人事部などの部署があるように、広島大学にもいろいろな部署があるのであります。が、教育室、学術室、医療政策室といった「室」という大きなくくりの中に、教育を主に担当

教員は何をするかというと、広島大学がどのように入試を行うべきかというその制度を考えていきます。今は全学の、主に学

「どの大学の入試の問題を研究するということですか?」

分からぬ形で公開します。それを用いて何かしらの傾向を調べるなどといったことを行っていきます。

「今のお仕事に

就くまでの経緯は?」

例えば、入試研究というと教育学系の所を出ないと出来ないかなと思うでしょう。でも、実際は、各学部の専門性はもちろん高いですから、いろんな学部のエッセンスを理解するというのは、なかなか難しいことで、様々な分野の人で力を合わせて研究する分野ではないかと思います。

私は総科の環境科学コース（当時は理系2コース、文系2コースの計4コースで構成されていた）を選んで、学部を卒業して大学院に進学（当時は学部

で所属した研究室（松田正典教授）が生物圏科学研究科だった）し、博士課程後期にそのまま進学しました。専門は物理、数理系の理論物理学です。研究室では、研究とは何かということをしつかりと教えていただきました。

しかし、みなさん分かると思いますが、理論物理といつてもいろんなところが関わります。

だから、総科で軸にしたのはもちろん物理学ではありますが、

別の見方として数理的な手段を使つて考えるということが身に付いたと思つています。例えば物理現象を解明するアプローチはたくさんあつて、化学的な分析でアプローチする物理化学と

いう分野、生物物理学という分野とさまざまです。数学的なアプローチでは、現実に起きている現象を量的に表現して、そこを数学やコンピュータを使った

数値計算でアプローチしていく。その手法は、他分野で開発された手法も貪欲に活用する。研究のフロンティアはそのように前進しているように思います。

2年間オランダの大学で理論系のポスドク（研究をメインに活動する職）に就いて、その後、広大で期限付きの講師の職に就きました。常勤職が九州の私立大学にあつたので、そこでは法学部に所属し、一般教育や教養、法学部のゼミを持ちました。法

律の分野でも、数理的な手法を使つたアプローチがあるので判例をデータベースにしたりと

いうことをします。法学部だから言語だけ、文字だけが大事かというとそうではなく、情報処理技術等も必要とされるので、そういう分野で関わっていきま

は広島市内の私立大学で、情報系の学部に所属しました。今、

こういう入試の研究をしているのも、ベースにあるのは数理的な物の見方や分析方法です。何

かコアな部分があれば、大学では理系の学部に所属できたり、文系の学部に所属できたりと、いろいろな場合があるのでないでしょうか。



「学生生活で印象に残つて いることはありますか?」

私が通つていた頃の総合科学部は、東千田のキャンパスにありました。出身は熊本県で、当時も熊本の人気が結構多くいました。一人暮らしをしていましたが、あまり自炊をしたことがありませんでした。それで、お好み焼き屋さんに行つたのですが、広島のお好み焼き屋さんはみたいなので、そういうとても、温かい雰囲気の街で生活できたなあというのが印象的ですね。翠町という、広大の附属校があるところです。キャンバスが東広島に移つてきて、昔からの学生街みたいなものも無くなつて、みなさんはそういう新しい何かを見つけないとけないと思います。入学センターと



街がありますよということを言いたいのですが。私たちは東千田という街のなかに住んでいましたから、そういう街の人とふれあう機会も多くありました。大学の授業で2コマ目、3コマ目などが空いていると、自転車で近くの映画館に行つたり、食事が終わつたら流川に歩いて行つたり、比治山にお花見に行つたり……まあ宴会が多いですね(笑)。そんな記憶が多いです。



熱心に説明する永田さんと取材陣

「総科で良かつたと思つ ことはなんですか?」

難しいですが、他の学部の人、例えば文学部の学生なら、「自分は文学部の学生だ」というアイデンティティは得やすいかもしません。自分が何を専門にしているかが所属学部によつてはつきりしているという点で、安心感があると思います。でもみなさんは、自分の学問的土台は何か?と聞かれたときに、簡

単には答えることができないかもしれません。特に1年生はベースになる専門性に不安があるかも知れませんね。視点を変えれば、その不安がどつちにも転がることができるという総合科学部の強みです。他学部で、自分の専門があることのメリットとしては、例えば化学科の学生だったら、化学を勉強しなければならないというプレッシャーがあるように、決められたモチベーションがあつて、そこを深く勉強しやすいということが言えます。他学部では、専門以外の分野には余裕があつたらちよつと触つてみようかという姿勢が取られていますが、総科の学生は、様々な分野の単位を取ることが要求されています。専門の決まつた学部にいたらそこだけに埋もれてしまうかもしれませんのが、総科というところで、ある意味強制的にあら

ゆるものに触れさせていただき
たということはあると思いま
す。実際にそこに身を置かない
とわからないことがあるとすれ
ば、そこに動かしてくれる力が
必要です。総合科学部は学部と

してそういう力を働かせて、学
生に様々な分野で生かすことの
できる力を身につけさせてくれ
ていると言えるのかもしれませ
ん。

◆一問一答◆

・趣味

国内温泉旅行とビール

・好きな食べ物

メロン（実家周辺の特産物です）

・好きなスポーツ

卓球・サッカー

・好きな有名人

J. J. de Swart先生（オランダのおもしろい先生でした）・G. t' Hooft（気さくなノーベル賞受賞者の方です）

・好きな音楽

GReeeN（子どもがファンです）

・好きな言葉

夢と希望

・好きな映画

解夏（長崎の映画です。「でんでらりゅうばでてくる
ばってん……」というわらべ歌がいいです）

・好きな本

万葉集

「後輩へのメッセージを お願いします。」

総合科学部でよかつたことの
続きになりますが、総合科学部
のみなさんはどこを自分の土台
とするのか不安に思うことがあります。
他の学部学科
だつたら4年間所属の学問分野
をやつたという自負心があります。
す。その点、総合科学部の学生
はそれぞれが各自の感覚を土台
にすればいいと思うのです。5
人いたら、5人それぞれ考え方
違うように、色んなことへのア
プローチの仕方も違つていいと
思います。他の学部だと同じ学
科のなかで、同じようなアプ
ローチで、ある意味同じ規格品
ができるも学生がそれでいいと
思つてしまふかもしれない。で

も総科の場合は、決まつたルー
トがある代わりに、みんな自分
で選んでいかなければなりません
。だからこそ自分の感覚を大
事にして、他の人と違うことを
することに怖がらないで挑戦す
るというような、ある意味での
独立心が必要かもしれません
ね。ただ、それができれば、活
躍できる場は限定されないので
はないでしょうか。

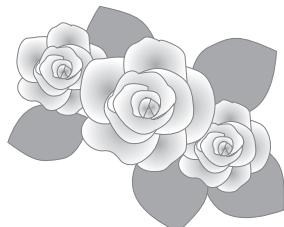
※内容は私見です。先生方、卒
業生の皆様、すみません。（永田）

【担当】

20生 山崎 弦太・山谷 義貴

21生 久住 忠彦・林田 啓吾

平野 詩歩



OG紹介



U PLANNING & DESIGN 代表
高山 美佳 さん

田主丸に来ました。田主丸が大好きになつて、辞めた後もそのまま住み続けています。

それからは街づくりの世界に興味が出たため、U PLANNING & DESIGNという地域計画とデザインの会社で独立しました。この会社の根本にあるのは、地域を元氣にするということです。」

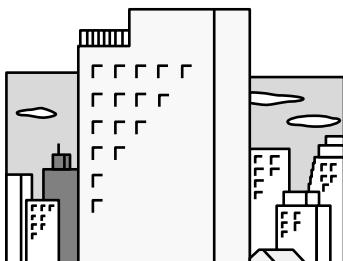
総合科学部でよかつたことは?

「法学や経済などと専門を決めきれなかつたので総科を選びました。当時は創立10周年で、他学部からの評判は『総科は4年間教養』というくらいほんやりしたイメージでした

が、私としては当時最先端のカリキュラムだと思つていました。地域文化プログラムに所属してアメリカ研究を専門にし、いろいろなジャンルでアメリカというものを見ていきました。こういう見方をすることがすごく今の仕事に共通していますね。例えば、地域を、建築や街作りなどとジャンルを限らずに、あらゆる編集によつて魅力的に見せていくといふことは、地域文化で培われたと今になつてたが、福岡に支店をつくることになつたため

学生時代について思い出を。

「当時は東千田のキャンパスにいたので、非常に狭くて古くて。そんなキャンパスに自転車で通いながら部活が中心の生活をしていました。あまりいい学生ではなかつたと思います。初心者で水泳部に所属していて、ジャージで通うような日々でした。当時水泳をやる女子が少なかつたので、初心者でもレースに駆り出されたりして……。非常に鍛えられ、インカレも経験させてもらつたし、面白い経験をさせてもらいました。もうひとつは私たちが入つたころから広大の統合移転が工学部から始まつていましたが、部活の男子は工学部の人が多くつたので、彼らは新幹線で東千田まで通つてましたね。そういう時代の過渡期にいれたこともひとつ勉強になりました。」



総科の印象は？

本などを作っています。」

「総科は本当に昔から仲が良かつたですね。

学部の雰囲気がすごく良かつたです。広大附属学校に教育実習に行って近くの寮に1ヶ月くらい泊まって、楽しかった思い出もあります。

あとは、総科に来られる教授陣がすごく飘々としていて、非常にゼミが楽しかった記憶があります。今ではしっかり勉強しておけばよかったですと思いつます……。」

現在の仕事の楽しさは？

「地域計画といつても思い浮かばないかもしませんが、半分が地域の人とワークショップをしたりだと、企画をしたりすること、あとの中は、デザインです。実は福岡市内から農村にお嫁に来まして、農村という全く違う環境にきたのがきっかけでローカルを元気にする仕事になりました。こんなすばらしいもの、すばらしい風景があるのに、なかなか伝わらないというのがあって……。その時ちょうどMacと出会って、コンピューターでデザインを印刷所に入れるという時代どうまく折り合って、独学でデザインをやって、

「こういう仕事をするときに困ったり行き詰ったりすることはありますか？」

「私はもともとデザインの勉強をしていましたわけでもなく、もちろん専門でもありませんでしたし、この業界に今まで身を置いていません。だからそういうことを教えてくれたのは印刷所の人だとか、古本です。どういう字詰めだとか研究したりして古本からたくさん

のヒントを得ています。だから誰にも習えない、習う人がいないというのが大変でしたね。あまり技巧に頼らずに、文字と写真だけというスタイルができたら、すごくそれを評価していただけるようになつて、今でもずっとシンプルなまでやっています。」

仕事が行政と

かちあつたりしないんですか？

「私の仕事の9割は行政との仕事です。やっぱり行政が変わらないと自治体は変われません。行政は税金で動きますから、大元が動くとすごく動いたり、代わりに民間でやると、民間は利益のためにというのがあるからすごく幅がせまくなつてしまつたり。地域住民は本当にボランティアという感覚を強いられてしまう。だからこの3つをうまくコーディネートして、一緒にやつて変えていくという



熱心に高山さんの話を聞く編集委員

感じですね。話し合いをすごく重ねるし、やりましたようよつて焚きつけてその気にさせたりもしますし、その結果うまくやれるようになりました。

農業をする時間とか、そういうのが説得力になつてゐる気がします。だから自治体とはとても仲がいいです。たとえば街旅博覧会なんかも民間とやる旅なので、すぐハードルはありましたが、とてもいい形で2年間やれます。行政もすごく変わって、旅の現場に法被着て手伝いに来てくれたりとか、一緒に企画をつくったりだと、ものすごくバックアップしてくれますね。」

行政とやるとき、

財源や費用の問題はなかつたんですか？

「財源には限りがあるから、最低限の予算で最高の効果を生み出せるように頑張つています。デザイン費がなかつたりするのはしょっちゅうですが、紙には多少の予算が許す限りは良い物を使うようにしています。やっぱり手触りとか、そういう感覚を大事にしたいですし、同じ値段でも手触りが違うだけで捨てられないものです。技巧がない分、シンプルな分、そういう所に気を遣いますね。」

地域づくりの活動をしている中で心掛けていることは？

「今やつてることを記録にとどめておかないと、本当に10年後にはわからなくなってしまうんじゃないかなという気持ちがあります。世代交代したりして。また、住んでいる方は、その地域の素晴らしいところに気が付いてないことがすごく多いんです。当たり前であります。そんなことが凄いの、みたいに。だからそういうところをあえて引き出してみる、ということも心掛けてますね。いつも、何かしら外の目線を持ちながら、この街を見るようになります。あと、決して古い話だけではなく、必ず今の話も入れるようにしていま

す。すごく古いことはたくさん文献があるのに、成功の歴史はほとんど資料がないんです。戦後の何もない時代も、一番日本人が経済成長をしていた時も、ドラマつてすごいものがあるんですよ。だからそこを掘り起こしてくださいって書いた地域には言います。」「人口は久留米市と合併して2万2千人で、全体的に見れば、現在は微減しています。微減はまだかなりいいほうです。限界集落はないので。この街については、山苞の道と言つて、風景を守る活動を10年間やつているの



田主丸町の風景

◆一問一答◆

趣味は？

「写真。特に人の写真をよく撮ります。」

好きな食べ物は？

「塩で握ったおにぎり。こっちにきて本当のおいしさを知りました。水1つで味が全然違う。」

好きなスポーツは？

「散歩。散歩大好き。」

影響を受けた、または好きな有名人は？

「いっぱいあります。言葉の仕事をしているので、その都度その都度ですね。」

好きな音楽は？

「ビートルズです。レットイットビーとか。今でも、彼が生きてたらなあと思います。」

好きな本は？

「東京タワー。1冊の中に凄くたくさん世界観が含まれていて、伝えられていることが好きです。」

好きな映画は？

「子育て中でほとんど見てないんですが、小津安二郎さんの映画は好きです。子育て中でほとんど見られないのですが……。」

好きな言葉を（座右の銘など）。

「最初に入った会社の社訓が、『自ら機会を作り、機会によって自らを変えろ』でした。それはずっと心の中にありますね。それは地域の中でも当てはまるんです。大変なことによつかると、それを思い出します。」

最後に後輩へメッセージをお願いします。

「総合科学部の学べる仕組みが他の学部じゃできないことなので、その体験は、社会に出たときユニークな考えができる基礎をつくっていると思います。なので、どんな所でも生きていけます。いろんなことをしてください。これからローカルはすごく面白いので、中央志向でなく、是非地方にも目を向けて、地域を盛り上げてくれたらうれしいです。」

【担当】

20生 山崎 弦太 山谷 義貴

21生 久住 忠彦 林田 啓誉 平野 詩歩